

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

糸魚川駅を中心としまして、今言われたHAKUBA VALLEY方面に伸びる大糸線、また日本海に沿って走るえちごトキめき鉄道、もちろん北陸新幹線の停車駅でございますので、この新幹線駅を拠点として市内への周遊を高めたり、町なかへの回遊を促す取組によりまして、それによって地域内の経済循環が高まるものと思っておりますし、また高めていかなければいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回の質問で取り上げました鉄道ジオラマとトワイライトエクスプレス、フォッサマグナミュージアムと長者ヶ原縄文遺跡、谷村美術館、押上新駅とヒスイ海岸、ヒスイ王国館と駅周辺飲食店の活用、HAKUBA VALLEYとの観光連携、それをつなぐ公共交通の利便性向上、そしてくろひめ号の走行にも本気で取り組んでいただければとも思います。これらの取組で、多くの観光客を招き入れ、地域経済に好循環を出し、駅北大火からの復興まちづくりを進めていただきたい。いま一度、私からの訴えとさせていただきます。

以上で質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

○19番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎でございます。

事前に通告いたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、総合計画策定事業の取組について。

清政クラブでは、夏に長野県飯田市のいいだ未来デザイン2028、いわゆる飯田市総合計画について調査してきました。その中の1つに、地域人教育による人材サイクルの構築では、地域人教育を受けた若い人の人生設計において、地域を学び、地域に愛着を持った若者は、高校を卒業しても地域との関係を持ち続け、やがて子育て世代になる頃には、自分の子供は自分のふるさとで育てたいと考えて帰郷し、地域を担う人材となる。その子供たちも地域人教育を受け、一旦はこの地を離れても、子育て世代になる頃には帰ってくる。こうした人材サイクルが構築されることで、地域には子供たちから年配者まで、多世代が住み続け、持続可能な地域が創出されるとあります。

いろいろまだありますが、そこで以下、項目によりお伺いいたします。

(1) 従来の総合計画における取組状況と目標設定項目の進捗状況及び問題点について伺います。

(2) 策定スケジュールについて伺います。

(3) 策定方針について、以下伺います。

- ① 位置づけと背景。
- ② 基本方針。
 - ア 構成と計画の期間。
 - イ 策定の視点と策定作業期間。
- ③ 策定の作業概要。
- ④ 策定体制。
- ⑤ 年度別策定作業。

(4) デザイン思考的アプローチによる地域づくりが今こそ必要であり、それぞれがアイデアを出し合って互いに評価し、議論し、意識の共有化を図って、計画に結びつけていく「共創の場」の創出が糸魚川市に最も必要なことであるが、どう考えるか伺います。

(5) 地域の皆さん一人一人の知恵と力を結集させて「糸魚川の未来づくり」にみんなでチャレンジしていくための計画（行動指針）として策定すべきと思うが、どう考えるか伺います。

(6) 戦略計画による効果的な事業の立案について伺います。

(7) 分野別計画と外部評価（市民会議・議会）の取入れについて伺います。

(8) 進行管理の考え方について伺います。

(9) 糸魚川市としての特徴的・先進的な取組をいかに策定するか伺います。

2 番目といたしまして、第 2 期「糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」重点戦略事業（チャレンジ事業）について。

(1) 新たな全世代・全員活躍型の推進強化について、先進地自治体の取組を参考にしてはいかがか伺います。

(2) 少子化対策（糸魚川で産み、育てるなど）の具体的な取組について伺います。

(3) 稼ぐ地域産業を育てるまちづくり（リノベーションまちづくり、創業支援体制の強化）について、新たな取組について伺います。

(4) 糸魚川版DMOの強化策について伺います。

- ① 広域な「面」で地域をブランディングしていく必要があるが、どう考えるか伺います。
- ② ターゲットの中心軸と地域のストーリー、価値、クオリティーを持続可能な形にするのがDMOの役割だと思うが、どう考えるか伺います。

以上で、1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、目標達成に向け、おおむね順調に推移いたしておりますが、人口減少問題に関する指標などにおいて、達成が困難なものも見られることから、引き続き、事業の推進に努めてまいります。

2 点目につきましては、2 年度から 3 年度にかけて策定作業を予定いたしております。

3 点目につきましては、人口減少問題を中心とした諸課題を克服すべく、持続可能な社会の実現を目指すSDGsの理念も取り入れ、本市のまちづくりの基本指針となる最上位計画として策定します。

なお、計画期間は4年度からの7年間とする予定であります。

4 点目及び5 点目につきましては、広く市民の声を計画に取り入れるとともに審議会などを通じて各分野からのご意見をお聞きし、本市の課題解決に向けた検討を行ってまいります。

また、計画の実施に当たっては、官民協働による取組を推進してまいります。

6 点目から9 点目までにつきましては、これまでの成果を検証する中で先進事例の研究もを行い、より効果的な事業の推進に向けた検討を進めてまいります。

2 番目の1 点目につきましては、先進自治体等の取組も参考にしながら取り組んでまいります。

2 点目につきましては、妊娠アシスト事業など、妊娠・出産に係る環境整備や子ども医療費助成事業など、子育て支援の取組を充実してまいります。

3 点目につきましては、創業塾やリノベーションスクール、創業支援制度等の成果を見ながら、地域産業を担う人材育成に取り組んでまいります。

4 点目の1 つ目につきましては、DMO法人である糸魚川市観光協会を中心に、北アルプス日本海広域観光連携会議などによる広域的なプロモーションを行っております。

2 つ目につきましては、食や体験、景観などの観光素材を、そのストーリーや販売方法を含めて総合的にマネジメントし、持続可能な観光地域づくりを行っていくことが、DMOの役割であると考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。順番がいろいろ飛ぶかわかりませんが、よろしくお願いいたします。

いいだ未来デザイン2028は、4年ごとで戦略的な重点的に取り組むテーマを基本目標として、特徴を生かす進行管理をやってるんですが、進行管理を通じて工夫の改革や100人の一歩を起ころうにするということで、毎年、戦略計画を立てながらビジョン実現に向かっておりますが、今回の総合計画、糸魚川市の総合計画では、どういう形でやっていかれるのか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

第3次、次の総合計画につきましては、まだ詳細は、具体的なこういう手順でということ、これから詰めていく必要があると思っておりますけども、今現在は、基本構想、基本計画、それで実施計画事業という形で、実施計画事業につきましては、3年先を見据えた中で1年ごとに状況は変わっ

てまいりますので、見直しをしながら進めていくという取組にしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

飯田市は、地域コミュニティ並びに地域自治組織、公民館がしっかりしていて、地域づくりプランというか地域振興計画が20地区ですかあって、下からのボトムアップ、それがすばらしいんですが、その辺について、やっぱり下がしっかりしないことには、根っこって誰か言ってますけど、根っこが大切だと言われとる。そこから盛り上がるような形をとっていかないと、本当に総合計画にならないと、こう思っているんですが、その辺も踏まえてどう考えていくか、糸魚川市、その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

飯田市につきましては、私ども職員で視察に伺わせていただいて、状況を聞かせていただいとるんです。私たちの視点は、総合計画という視点で行ったのではなくて、地域自治の取組を学びたいというところで先進地を見せていただいたんですが、まず、飯田市の基本というのは、まず市長の考え方が非常に強くて、やっぱり地域コミュニティ、いわゆる地域が、パソコンでいうとOSの働きをする。やっぱり基盤だと。それぞれの20の地域の基盤がしっかりしてないと、幾ら政策というアプリを打ってもだめだ。この考え方が、はっきりしているというのは分かってきました。そういったところで、地域、飯田市の場合は20の自治組織ということになっておるんですが、そこら辺の体制というのは、しっかり地域住民とのコミュニティ、ボトムアップで意見を取り入れていくという仕組みがはっきりしてるなというのが分かってるところです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

総合計画は、下から、先ほども申しあげましたように、今、糸魚川市では地域プランを各地区でつくられとるんですが、それらを今どのぐらい、何地区あって、どのぐらいできているのか、それも教えてもらいたいんですが、やっぱりそこから盛り上げていって、総合計画が必要になってくると思うんですが、その辺の感覚でいくとどういう形でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

糸魚川市の地域づくりプランにつきましては、現在13地区、公民館エリアに行きますと21エ

リアになるんですけども、そのうちの13エリア、最近ですと田沢地区ですとか小泊地区というのが出てきておりますので、今13地区になっております。やはり地域づくりプランをつくるというのは、私の持論ですけども、やっぱり地域価値の共有していると。その価値の現れるというのが、こういうプランとして上がってくるのかなというふうに思っておりますので、やはり地域として何が大切なのか、どこを守りたいのか、そういったところの価値観が出てきてるといってもありますので、ぜひやっぱりそういった動きというのは、これからますます大切になってくるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ下から盛り上げていって、ぜひとも1年ごとの戦略計画を立てながら、総合計画を1年ごとに見直していくというパターンで、ぜひともやっていただきたいんですが、その辺は飯田市はやれとるんですが、それで項目を絞りながらやっていくんですが、その辺の考え方はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

飯田市のいいだ未来デザイン2028、見せていただきました。それとあと戦略計画、戦略計画というのは、1年単位で見直していきますので、糸魚川市でいえば実施計画と同等なのかなというふうに思っておりますので、計画は、たしか12年スパンでつくってたので、糸魚川市は7年で改定するというのが基本ラインで今進めてるんですけども、やはり基本構想というのは非常に長いんですけども、その中で実施計画で戦略的計画という言い方をされますが、1年ごとで見直していくというのは、そこらは糸魚川市と同じだと思いますので、そこら辺の状況が変わったときに、機動的にできる。

ただし、いわゆる基本構想に沿った都市像ですとか、基本的なラインというのは変えない中で、その時代に合った流れというのは、対応できるような仕組みはつくっていかなくちゃいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

実施計画見させてもらうと、令和1年と2年にかけて総合計画つくるということで、アンケート調査もやられるということなんですが、このアンケート、どのような形をとっていくのか、その辺、飯田市は中・高校生も含めた中でのアンケート調査、それで市外からアンケートも含めた中で、取りながらどう総合計画に対応するかも考えながらやるんですが、糸魚川市としては、どうやっていく、調査をやっていくつもりなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

これからの取組につきましては、今この場ではちょっと申し上げることはできないんですが、前回の第2次総合計画のアンケートにつきましては、たしか中学生からの意見と、あと市民の皆さんの意見ということで、たしかつくっておりますので、議員の言われる市外の方の意見というのも非常に大事だと思うんです。やっぱりふるさとを思う市民の方、意見というのもいろんな思いはあると思いますので、また、そこら辺も今の糸魚川の置かれてる立場を見ていただいて、逆に応援していただけるようなものができればというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

前は中学対象にアンケートをやっていた。ぜひ20回目の教育懇談会あったら、高校生の意見も含めて、ぜひ取っていただきたい。小学生も含めて、子ども糸魚川づくり会議、それでアイデアや提案を、10年後どうしたいんだという子供の振興計画というのもぜひやっていただきたいなと、こう思うんですが、その辺含めてどうでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今、議員の言われた子供のところということになりますけども、総合計画は、各種個別計画の最上位計画になるんですけども、その下のほうには、各個別計画というのがあると思うんですね、健康といがわ21、福祉計画、子ども一貫教育基本計画と。そういった分野分野の、例えば子供であれば、子ども一貫教育計画の中で、そこら辺ターゲットを絞ったアンケートですとか取組ですとか、そういったところをうたいながら、最上位計画には反映していかなくちゃいけないんですけども、まず細かいところになりますと、そういった分野分野のターゲットを当てていくというやり方もあるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういうのも取り入れてやっていただきたい。それで、加藤年紀さんの本で、「なぜ彼らは『お役所仕事』を変えられたのか?」、常識、前例、慣習を打破する仕事術の中で、一番最初に出てくるのが、塩尻市の山田地方創生推進係長の中で、大企業と研修プログラムを開発し、関係人口を増やす、大手のコンサルに総合計画を丸投げしてやるのではなく、本当にこれは2年かけて塩尻は、塩尻のありたい姿を市民や専門家も含めて、それと大企業の方々と、研修、二泊三日で行うんですが、そういう課題解決案を考える合宿として二泊三日でやるところもあるんですが、5回

目になるんですが。そういう形の企業とか、中小企業でもいいんですが、糸魚川におられる企業でもいいですし、ちょっと見方を変えて、本当に大企業の方、糸魚川をどう見とるんか等含めて、そういう形のアンケートだけでなく、本当の生の声を、提案して、今度はそれが、課題解決策を市長に直接プレゼンをして、もしそれでよけりゃ予算化されるということを塩尻はやってるんですね。ぜひそういうのも含めて、市外の方々、世界の方が糸魚川をどう見とるかぐらい、本当に考えていただきたいと思うんですが、その辺いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

アンケートだけではなくて、いろんな市外の企業の方からの意見もという視点であると思いますけども、やっぱり糸魚川のこの中だけではなくて、やっぱり広くグローバルな視点というのは、当然必要であるというふうに思っております。やっぱりそうなるが一番大事なのは、糸魚川と首都圏とかのつながりということに行きますよね。そうなるやっぱり糸魚川市出身者会の皆様ですとか、いろいろな首都圏での、ジオパークも含めてなんですけども、つながり、そういったところを生かしながら、いろんな、今糸魚川の置かれている立場を見ていただきながら、いい策があれば、やっぱりそういったものは耳を傾けていくという姿勢は大事であるというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ観点を変えて、見方を変えて、いろいろな形で糸魚川をどう見てるんかも含めて、ぜひやっていただきたいなと思っております。

それと、財政の話はここでは聞きませんが、行財政の出前講座をやると、対話型自治体経営シミュレーションゲーム、SIM2030、2030年をどうやるかという、5年ごとに起こる様々な課題に対して6人で1つのチームで仮想自治体、これ糸魚川に置きかえて、部長級職員を、普通の係長とかそういうがは、はい部長になったつもりで、糸魚川のありたい姿を考えて、制限時間内でチーム内で対話に基づく政策選択を行って、判断を積み重ねていく対話型シミュレーションゲーム、ゲームなんですよね。だけん、あらかじめ手持ちのカードをまだ見せてないんですけど、そういうのが出てきたときに、この課題はどうすればいいか、子育て、少子化対策をどうすればいいか。カードは伏せといて、出たときにシミュレーションゲームをしながら提案していく形なんですけど、こういうやっぱり自治体の職員の研修ではあるかもわかりませんが、こういうのを職員だけでなく、市民も含めてどうやっていけば、糸魚川残っていくかぐらいを含めて、そういうゲームを通した若手職員、それと企業や市民を巻き込んだ中で一緒にできるようなゲーム方式、私やっぱり必要だと思うんですよ。

この前、教育懇談会で本当に高校生を入れて懇談会やりましたですよ。あの中の高校生のすばらしさ、そういうのをどんどん、どんどん上げていって、提案していただけるような仕組みづくり、企業も巻き込んでやられた、あれを教育界だけでなく、いろいろな形で分野ごとにやっていくよう

な形っちゃ、私は必要だと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

あと市民の多くの年代の声を聞くというのは、行政でよくやる手段なんですね。大体、こういうテーマについて説明会ですとか意見を聞いて、さあどうですかというのが、今までのスタイルだったと思うんですね。それが決して悪いとはいいませんよ。否定はいたしませんけども、今、議員が言われた福岡シミュレーション2030、実は私もそれに参加しました。糸魚川市の市民会館で実践いたしました。そのときに確かに突然リアルな、1つは財政のテーマになるんですけども、これをやるにはどれを削る、どうするという、もう切羽詰まった、境界上がれて非常に、ワークショップとは違う、非常に熱くなるゲームだったのかなというふうに思っております。そういった中でも、やっぱり住民の皆さんの対話、それから、納得、説明、こういったところがないとなかなか難しいというのが、その場で私が感じているところでもありますので、それも1つのいろんな意見を聞いた、住民の皆さんに知っていただいて、どう判断するか、どう自分が参加できるのか、そういうツールにはなるというふうに非常に思っていました。

こないだ開かれた教育懇談会のワークショップ、それも1つの手法だと思いますので、やっぱりやり方はこれっていうものは、1つに限られたことじゃないと思います。いろんなやっぱりやり方あると思います。そういった中で、いかに自分ごととして考えていただけるか、そういった取組は必要なんだろうけども、何をやっていいかというのはちょっとお答えできないんですけども、そういった手法は、取り入れていかなければいけないなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういういろいろな手法があると思うんですね。全国的に見たりすれば、それも含めて、単なるアンケートを集計して、分析して、総合計画、審議会にかけるだけじゃ、私は駄目だと思う。いろいろな方々から糸魚川をどう考えとるかも含めて、どう提案、提言をいただきながらまとめていくような総合計画であってほしいと思いますし、進行管理の中で、市民会議と議会も含めて外部評価をやってるんですが、飯田市では、市側の説明が7月から9月にかけて行われて、市のほうから。内部評価をまとめたのを7月から9月にまとめて、議会に評価をいただけるんです。議会による評価、で市民による評価も含めて、9月の市議会決算審査で、この決算審査で提言書を議会がまとめるんです。市民からも評価をいただくような方式、私はそのぐらい決算も必要だと思うので、ぜひそういうのも含めて、ぜひやっていただきたいと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

総合計画につきましては、総合計画の審議会という附属機関がありますので、そこでの検証をしながら、どこが弱くて、どこがいいとかという、そういった検証はいたしますけれども、やっぱりこの今、総合計画ですので、糸魚川市全体の取組になります。今、事務事業評価でも担当者レベル、それから係長、それから行政評価という形で進んできているんですけども、もうちょっとマネジメントの仕組みというのは、これから策定する総合計画に当たって、どう検証していくかという、そのマネジメントサイクルは、いろんな他市の状況とか、いろんな取組を見ながら研究していかなくちゃいけないというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ今の振り返りも含めて、それを構想、基本計画から未来デザインへ変えていくような、未来のデザインを、7年後ですか、やっていくような。新たな戦略策定と実践に投入していただきたい。実践も伴わなきゃ駄目なんで、同時に戦略計画を立てながら、実践のほうへ。ただ計画やって、ただ行った、どうだった。それをプラスに持っていかんなんやんで、その深化、深いことも考えながら、ぜひ実践に結びつけていただきたいと思うんですが、その辺も含めて、現場の発想と横断的な発想、それが共創の場ということで、ともにつくるほうの場に持っていかなければならない。それと、戦略計画を立てていくべきだと、こう思っております。

それで、飯田の未来づくりに求められる組織の姿、職員の姿も含めて、現場も含めて、全体を考えながらやっていただきたい。ぜひ同じ総合計画つくるんなら、昔とか前までつくってたのを変えて、既成概念を乗り越えるしなやかな現場力が、今こそ必要な組織ではないかと考えてるんですが、その辺も含めてどうつくっていくか、今の考えを教えてくださいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

やはり総合計画の実践、戦略的な実践、計画づくりから実践というふうに議員がおっしゃると思うんですけども、やっぱり活動指標で、何をやった、何回やったではなくて、今一番求められているのは、KPI（key performance indicator）、いわゆる成果、やってどうなったのか、どう変わったのか、この成果なんですね。成果主義といいます。そういったところで、今の総合計画の中でもそういった成果というところを求めておりますので、引き続き、やっぱり活動で何回やった、アプローチした。それも大事なんですけども、一番の究極は、何が変わったんだ、どうなったんだ、そこが言えるようなものにしていかなくちゃいけないですし、やっぱり職員もそこら辺のところを意識してやっていかなくちゃいけないと思っています。

ただ、実施計画なり総合計画をつくって、進んでるんですけども、実際、自分の立ち位置、職員の立場ですけども、自分の立ち位置として、どこにこう動いてるとか、どこにこう自分のやっている業務が当たっているのか、そこら辺のところ、つなぎというのは、これから組織のほうの体制ですかね。そういったところでも考えながら、つくっていかなくちゃいけないというふうに思っております。

す。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

昨日、山本議員も言われた高校の最終志願状況、それも見てびっくりしたんですが、糸魚川高校、白嶺高校、大分少ないと。私は、そこからも危機感を持って、ぜひ総合計画に当たっていただきたい、こう思っております。それで、岡山県奈義町、これも内閣府行ったときにいろいろな形でやっとなつたんですが、SDGsも含めて推進と連携で、今回も総合計画には入れていくということを聞いているんですが、その辺も含めてどう対応していくか、お伺いしたいと思いますけど、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

持続可能な開発目標、SDGsのお尋ねだと思うんですが、今、第2次総合計画で都市像でございますよね、「さわやか すこやか 輝きのまち」という未来の交流都市と、これもありがたい姿だと思うんですが、議員、基本方針で何でしょうか。30年先、持続可能なまちづくりが、今の糸魚川市の基本方針で総合計画はつくってあるんですね。一番課題として工夫しなきゃいけないのが、人口減少対策、人口減少社会の対応ということになっておりますので、やっぱり持続可能性というのは、非常に大事なことだと思いますし、SDGsは、もう国連で、世界的な取組になってきてる。しかも17の目標ということになっておりますので、それが総合計画の中の指標をやるときに、この仕事がどこのSDGsの項目につながっていくのかというようなアプローチもしながら、じゃあ自分の立ち位置の仕事が、どこの17の項目のどこへつながっているのか、そんな認識をしながら総合計画の組立ても含めて、考えていきたい思います。

○議長（中村 実君）

五十嵐議員の質問の途中ではありますが、昼食時限のため、13時まで暫時休憩といたします。

〈午後0時00分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

午前中はありがとうございました。

総合計画で、未来の地域づくりは、デザイン思考的であるべき、想像力と創造性を巡らせて、人の感性に訴える地域づくり、訪れる人に感動を与え、そこに住む人が誇りを持つということで、事業、構想力の研究の中で、新しい価値創造のためには、むしろ異質人材の集団を意識的に形成することが望ましいと言われております。さらに磨きをかけ、持続可能性を追求する糸魚川地域として、全国モデルにしてほしいと思ひまして、次に移らせていただきます。

総合戦略の関係のほうで、最初は3番目の稼ぐ地域産業のほうでなんですが、静岡県熱海市が、熱海リノベーションまちづくり構想検討委員会、これは毎回100人ぐらい集まって、2カ月に1回ぐらい、2016年からやっております。創業支援プログラム99℃ということで、企業が次々と生まれ育つエコシステムづくりを目指してるということで、熱海が大分、観光客が来なくなって、今度はどうするかということで考え出して、世界から選ばれるまち、地域の食文化、良質な食のコンテンツ、食文化も含めてかなりいろいろな形でやっておられるということで、ぜひそういう形も含めて、暮らし方の多様性、全体を考えながらやっていっていただきたいと。

産業は全て網羅されるんですが、その中で、私も何回か一般質問でやらせてもらってる中で、f-Biz、産業振興センターを含めて、小出さんて方が本を何冊か出してる中で、富士市並びに岡崎市、いろいろなところで今、全国19か所、開設準備中の施設を入れて24か所、Biz、f-Biz、OKa-Bizを含めてやられとると。各Bizのセンター長の募集には、常に150人以上の希望者が、全国からやってくるそうです。ぜひその辺も含めて、産業振興センターを糸魚川につくっていただきたいと思ってるのですが、一般質問の回答では、今、商工会議所が移転に伴って検討するという回答なんですが、商工会議所が中心ではなく、ぜひ行政が主になっていただきたいと言われとるんですが、商工会議所、商工会ではなく、行政が腹をくくるかどうかにかかると言われております。その辺も含めて、チャレンジする中小企業、小規模事業者、個人事業主、農家、漁業も含めて、林業、それらを増やすこと、もうかる会社にすることで、地元経済は潤って、雇用が生まれ、地域は持続的に活性化するようにということで、やっぱり人だと思ふんで、人を雇うかどうか、その辺を含めていかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

f-Bizと中小企業ですとか産業支援の施設につきましては、今、議員おっしゃるように全国で幾つか設置されてるところでございます。当市におきましては、商工会議所、商工会の経営指導員がコーディネーター役を務めておるところでありますけども、新潟産業創造機構ですとか、創業支援ネットワークの中でも、相談体制がつけられておひまして、Bizは有効であることは、間違いのないと思ひますが、現在、商工会議所と市で、糸魚川産業創造プラットフォームの事業を取り組んでおります。このような取組の中から、ニーズが高まってきた段階で検討されるべきものというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

県議会でも、産業、稼ぐ構造へということで、今回、付加価値の高い産業構造への転換が必要ということで、2020年度は成長分野などを重点的に支援し、本県の稼ぐ力を高めるということ、IT企業誘致とか、防災関連産業の集積とか5G、移動通信システムなどを活用したビジネス創出など、成長を意識した取組を多く盛り込んだ。県は、それでいいと思うんですが、糸魚川市がやっぱり人口減を含めて、少子化対策も含めて、私は働く場、雇用を増やさないとには、駄目だと思いますし、ぜひ今、北陸発で氷見市が取り組んでるということで、センター長公募を含めてやられて、それがちょっとどうなったか、ホームページ見てもわからないんですが。副市長を雇ったみたいなんで、それはHimi-Bizも含めて、年収が1,200万、ほとんどの24か所ある中で、ほとんどがセンター長は1,200万、年収1,200万で市が契約しとるということを知っています。その辺でやっぱり商工会議所と商工会とか関係なく、やっぱり行政が腹をくくつかどうかによって決まってくると思うんで、雇用創出、産業振興も含めて、全体の指導的立場、コンサルティングをできるのは、やっぱり人だと思うんで、全国公募、その辺も含めて、市長、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり、やはりまちづくり、また地域づくり、いろんな面で一番はやはり人だと思っております。いかにいい人材がなければ、物は動かない、人は動かないと思っております。非常に難しく、募集しても来るかという、やはりその辺が一番不安であります。今まで幾度となく、いろんな人材を求めてまいっておるわけですが、問題解決してないのは、やはりそれにぴったり合う人材がいなかったのだろうと思うし、また、糸魚川の町として、糸魚川の市として、やはり個性豊かなるがゆえに、なかなかほかと同じような解決方法ではなかなか難しいのだろうと思っております。その辺をどのようにしていけばいいか、当然、市だけではできないものではございませんので、商工会、商工会議所とやはり連携をとりながら、進めていかななくてはいけないだろうと思っております。そのようなことで、当然、行政だけでできるものであれば、非常に我々といましては、スムーズに動けるものだと思っております。そういったところ、先進地をもう一度検証させていただきながら、その辺についても進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ本当に人だと思うので、官民連携して、福岡の壱岐市、これは島なんですけど、これにセンター長募集して、391人が全国から来たそうです。その中から1人選ぶんですから、すごい方々も来てるんで、これは元リクルート出身の社員とか聞いておりますし、埼玉県の狭山、Say-a-Biz、これは295人が全国から来たそうです。ぜひ募集すれば、どんだけ来るかわかりません

けど、そういう中から選んでどうするか、すごい人が来ると思う。金だけでないですけどね。そのぐらいやっぱり糸魚川だけの範囲を見るのではなく、上越からも白馬、小谷からも相談に訪れるような形をぜひ、市長言われたように、ぜひ先進地探って、ぜひとも募集をかけていただきたいなど、こう思っております。

それと次、少子高齢化、少子化対策、これは先ほど岡山県の奈義町、これはいろいろな形で本に出てくるんですが、一番目にある全世代全員参加型の中でも仕事コンビニ、仕事コンビニでも出てくるんですが、仕事があるからこそ、子育て支援も手厚いと。子供がいっぱいおる。そん中で、子育て応援宣言を奈義町はやってるんですが、糸魚川市もいろいろやとるんですが、幅広い独自の施策の中で、託児・育児支援手当、高校等就労支援、いろいろな形で、就業支援ですね。それも含めて、ワクチン接種とか、ノロウイルスワクチン、いろいろな形で、昨日もありました不妊治療、妊娠したらいろいろな形も出てくる。手当、医療費助成、給付、保育園、幼稚園も含めて、預かり保育とか保育料、多子軽減とかいろいろ出てくるんですが、この辺も含めて、糸魚川市もうちょっと何か、子育て支援をやるんだから、何かを削るといふか、そういう形も私は必要だと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり選択と集中という形になってきますと、やはりどこかを指すと全てできるものではございませんので、絞り込んだときには、少し遅れていく部分や後回しになる部分も出てくるものもあるかと思うわけでありますが、しかし、それが最優先という形になれば、また致し方ないことにならるかと思うわけがございますので、なるべく将来に禍根を残さないように、またつけを回さないように施策をつくりながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐議員。

○19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ少子化対策、本当に頑張っていたきたいと思ひますし、もう一点が、DMO、これは本当に雪国観光圏へ行ってまいりましたが、糸魚川には観光地がないと言われました。それにぜひストーリー性をつくって、ターゲットを絞って、ブランディングもして、北アルプス連携でやっていただきたいと、こう思ひまして、一般質問を終わらせていただきます。

○議長（中村 実君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺議員。〔17番 渡辺重雄君登壇〕